

町民の広場

雑感

持留校区公民分館女性副部長

黒丸 須美恵

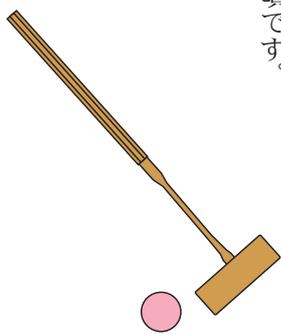


楽しみにしていたサッカーワールドカップ、日本代表は結局一勝も出ないまま「アツ」という間に一次リーグ敗退という結果に終わってしまいました。せめて一勝でもあげていてくれたら…。この梅雨空も気持ちの上でスカッと晴れていたかもとさえ残念です。でもニュースで顔つきまで変わって帰ってきたイケメン選手達を見ると心から「ご苦労様でした」と言いたいと思います。

ニュースと云えば、近頃なんと痛ましい耳をふさぎたくなるような事件・事故の多いことでしょう。それも幼い子供を狙った惨忍な犯罪、また、少年によるいろいろな犯罪など、毎日テレビ、新聞を見ていると胸の痛くなるようなことばかりです。高校一年生による自宅放火、母親と弟妹を死亡させてしまったという事件は、本当にこの子ばかりが悪いのでしょうか。そこまでこの子を追い詰めてしまった親の「勉強、勉強」という姿勢に責任はないのでしょうか。こんな風に考えるのは自分にも同年代の孫がいるからでしょう。自分のこととなると定年になり早くも7年、いつの間にか高齢化社会の一員、「光陰矢の如し」とはよく言ったものです。近頃の脳力、体力の衰えは悲しいものがあります。出先などで人に会っても顔は覚えてるのに名前が思い出せない。2、3日してから「アア、誰さんだった」、物を取りに行き「アレ、何だったけ」、元に戻ると「アア、だった」というのは日常茶飯事です。「自分もそうだよ」と聞けば何だかホッとしてしまいます。

体力の衰えを少しでも食い止めようとグラウンドゴルフでいろいろな大会に参加します。そこで見る高齢者の方々の元気な姿に本当に驚いています。表彰を受けられる背筋をピンと伸ばした姿、歩き方、自分もあの年であるようにしていられるだろうかと考えます。猛打でいつもガツクリですが、皆さんと笑って楽しくお弁当を食べ一日が終わる幸せをいつまでも持ち続けたいと思います。

また、仲間づくりや身体のための健康体操で汗を流します。そこでの85歳を越えられた先生のビックリするような大声にいつも元気をもらいます。グラウンドゴルフ、体操の大先輩方の生き方を少しでも見習っていきたいものです。そして大好きな石原裕次郎の「わが人生に悔いなし」のようにこれからも生きて、こればかりは自分の思うようにはいかないかもしれませんが、PPK（ピンピンコロリ）で締めくくれたら最高だなあと考える今日この頃です。



編集後記

「おおさき議会だより」は昭和56年11月に第1号を創刊し、今回で第100号を数えることになりました。これも町民の皆様方の暖かいご協力、ご支援のたまものと厚くお礼申しあげますと共に先輩広報委員の方々に心より敬意を表します。

議会だよりは年4回発行し、1回で5900部印刷し、自治公民館加入世帯に1部ずつ発行しております。編集体制は副議長を委員長として、各委員会から3名ずつ計10名で企画、レイアウトなどを行い、写真撮影は主に事務局にお願いしております。また、作業手順につきましては、一般質問事は、一般質問を行った各議員が最終本会議までに提出し、担当委員が内容チェックを行い、編集会議3回、校正3回を行っています。納品までに40日程度を要します。広報印刷製本費は約60万円を予算計上しておりますが、広報編集委員の費用弁償はありません。今後も議会だよりが町民の皆様にあ読されるよう、わかりやすい紙面づくりを目指して広報編集委員一同、頑張っておりますので、ご意見、ご感想をお聞かせください。

広報編集委員一同